

序 章 本書の課題と構成

一 研究潮流と今日的通説	3
二 吉田孝説への疑問と方法視角	11
三 本書の構成	22

第Ⅰ部 日本古代国家の農民規範と浮浪人

第一章 日本古代の力田について

はじめに	37
一 古代中国における力田	38
二 日本古代における力田	45
三 力田政策の思想的背景	54
おわりに	61

第二章 律令国家の農民規範と浮浪・逃亡

はじめに 68

一 古代中国の農民規範と分業論的社会編成原理 70

二 日本古代の農民規範と浮浪・逃亡 81

三 力田的な農民規範の担い手と地域社会の現実 97

おわりに 103

第三章 律令国家の社会編成原理の転換と浮浪人認識

——「不論土浪」策の登場——

はじめに 116

一 律令国家の浮浪人認識と「不論土浪」策の登場 122

二 律令国家の社会編成原理の転換とその前提 142

三 伊治公砦麻呂の「蜂起」と人民的交通 149

おわりに 156

第Ⅱ部 古代の共同体と地域社会

第一章 古代女性の婚姻規範——美女伝承と歌垣——

はじめに 173

一 根日女と引田部赤猪子の説話	175
二 歌垣と女性の婚姻規範	186
三 「皆婚」規範の形成と古代の生活環境	207
おわりに	213
第二章 人を取り巻く自然・社会環境と古代の共同体	
はじめに	227
一 古代の歌垣	235
二 婚姻と出産（生殖）をめぐる共同体行事	248
三 生命・生存の維持をめぐる村の自立性	259
おわりに	263
第三章 「国占め」神話の歴史的前提——古代の食膳と勸農儀礼——	
はじめに	280
一 「国占め」神話の全体的特徴	285
二 「国占め」の食膳儀礼	294
三 「国占め」のための勸農行事	299
おわりに	305

第Ⅲ部 古代の水陸交通と境界の呪術・祭祀

第一章 古代国家とミナトの神祭り

はじめに	321
一 ミナトの呪術・祭祀伝承	321
二 ミナトの自然環境と信仰の場	324
三 古代国家の海洋祭祀と海部の編成	334
四 神戸・西摂地域から明石海峡の海人とその動員編成	340
おわりに	343

第二章 古代国家と敏売崎の外交儀礼

はじめに	348
一 敏売浦と敏売崎の外交儀礼	348
二 神酒と肴の共同飲食	353
三 古代国家にとっての神戸・西摂地域	357
おわりに	360

第三章 『播磨国風土記』からみる地域間交通と祭祀

——出雲国と王権との関連で——

はじめに……………365

一 出雲国の関連説話の特徴……………366

二 六世紀後半以降の出雲——播磨間交通と往来者による境界祭祀……………377

三 境界祭祀の重層性と出雲の「荒ぶる神」……………388

おわりに……………392

終章 日本の律令国家と地域社会

一 日本律令国家による社会編成……………399

二 律令制下の地域社会と共同体……………413

三 今後の課題……………424

初出一覧

あとがき

索引（事項／史料名／研究者名）

序 章 本書の課題と構成

本書は、日本古代国家の特質、および当時の社会のあり方を考察し、両者の関係を解明することを課題とする。なかでも律令国家の農民規範と浮浪人認識をめぐる問題を取りあげ、交通論の視座を重んじながら、おもに八～九世紀代の社会統治原理の特徴と変遷を明らかにする。また民間祭祀やそれに関わる神話・伝承にもとづき、地域社会や共同体の実像の究明をめざす。

一 研究潮流と今日的通説

(1) 出発点としての一九七〇年代初頭

近年の日本の古代国家論や地域社会論の枠組みが形成される直接の出発点は、一九七〇年代初頭に求められる。原秀三郎・石母田正・井上光貞・青木和夫ら各氏によつて、次々とすぐれた問題提起がなされた。個々の捉え方や結論には少なくないズレや違いがある。しかしそこでは律令体制の重要性や、「完成された国家」としての律令国家成立の意義の大きさなどが強調された⁽¹⁾。

たとえば、のちに大きな影響を与える在地首長制論の提起をおこなった石母田氏は、律令国家の成立の重要性

を喚起し、つぎのように述べている。

国家の成立についての諸問題が全面的に提起されるのは、古代国家の完成される時期においてであって、七・八世紀、すなわち推古朝から大化改新を経て律令制国家の成立にいたる時期こそ、国家の成立を総括的に問題にし得る基本的な場でなければならない。⁽²⁾

このように一九七〇年代初頭頃の古代史研究の世界では、律令国家を古代国家の完成形態と見なし、戸籍・計帳を基本とする統治体制を、前代と比べ、より高度で成熟した社会編成システムとみる点ではほぼ一致していた。しかしながら国家と社会をめぐる通説的な理解は、このうち石母田氏の在地首長制論を基軸にして大きく転換していく。

石母田首長制論の大きな特徴は、律令制下の基本的な生産関係が、郡司層（国造層）に代表される在地首長と農民との間にあったと考える点にある。石母田氏は農民の地縁的組織としての村の存在を否定しない。しかしそれが一個の法的主体として自立的な共同体であったとは認めない。⁽³⁾むしろ共同体の共同性が、ゲルマン社会のよいうな「民会」ではなく、首長によって代表されるというアジア社会の構造により、法的に自立した共同体は、郡司によって率いられる郡レベルの共同体だけであつたと指摘する。

それゆえ当時の基本的な生産関係は、この郡司層と農民との間に求めざるを得ず、こうした伝統的な関係に依存する形で、律令国家の主要な収取・支配制度（租庸調および雑徭制）が成り立っていたと説く。⁽⁴⁾石母田氏は、律令制下の雑徭制が、あらかじめ大化前代から存在した在地首長の広汎で単一な賦役賦課権を前提とし、それを統一的に制度化させた「二次的な生産関係」であることを繰り返し述べている。

このように石母田説では、在地首長制が一次的で本源的な生産関係であることが強調されるものの、国家と農民との関係も、二次的な生産関係として措定されていた。しかも二つの生産関係における、階級的な支配関係の

視点は明確に維持されていた。しかし石母田説を襲った後継の学説では、この点をめぐり、つぎの二つの相異なる方向性が示されることになる。

その一つは、首長制の実像解明をさらに徹底化し、主要な生産関係を郡司層レベルよりもっと下位の、村落首長と農民との間に求め、また村落共同体の存在も認めようとする見解である。これは吉田晶氏⁽⁵⁾や大町健氏⁽⁶⁾などによって代表される考え方で、一般に村落首長制論といわれる学説である⁽⁷⁾。

筆者自身も、律令制下の地域社会において、この村落首長制が一つの完結した生産関係として機能していたとはみないまでも、史料上、「村首」⁽⁸⁾「社首」⁽⁹⁾などとしてあらわれる、村レベルの族長層が担う共同体機能の問題やその支配関係の存在を重視する立場に立つ。ただし吉田晶氏らの村落首長制論を、その後さらに批判的に発展させた総合的な議論は登場しておらず、今日ほとんど正當に活かされていない状況にあるのではなからうか。

これに対して、もう一つの方角性は、石母田氏の生産関係論の視点を後景に退け、在地首長制の関係を、事実上、首長層に体现される人格的な共同体的機能の問題に置き換え、それにもとづく社会論や古代国家論を組み立てようとする流れである。

これが現在でも大きな影響力をもっている見方で、古代史研究における通説的理解になっているといっても過言ではない。そうした議論の方角性を決定づけたのが、一九八三年に刊行された吉田孝氏の『律令国家と古代の社会』⁽¹¹⁾である。

(2) 吉田孝『律令国家と古代の社会』の登場

本書の中で吉田氏は、日本の律令国家を「首長制」と「律令制」の二重構造で理解しようとする。このうち首長制は、石母田氏のような生産関係論としては構築されていない。社会人類学の首長制理論が取り入れられ、広

義の親族組織として捉えられる。古代の氏族関連史料にみえる親族呼称やインセスト・タブー（近親相姦をめぐる社会的禁忌）などの分析にもとづき、それが中国のような父系制（家父長制）的な原理ではなく、双系制的な構造をもっていたことが説かれる。

吉田氏によると、双系制の原理の社会では、律令制を支える自立的な村落共同体は存在しなかった。この見方は基本的に戦前来の石母田説を継承した考え方である。しかし吉田氏は、基礎単位となる夫婦と未婚の子供から成る小家族について、それが共同体的機能を体现する在地首長（郡司層レベル）の「オホヤケ」（大宅Ⅱ公）の構造に強く依存していたという。そして全体として八世紀前後の日本の基層社会は、双系制の原理にもとづく流動的で不安定な社会であり、中国と比べて「未開な社会」であったことが強調される。

他方、このような社会のあり方にもとづき、七世紀後半以降に継受された律令制やそれにもとづく統治技術も、実際の運営面において、中国型の「成熟した社会」（父系制原理）に対応した統治原理として機能していなかった。それは日本の貴族層が中国から「早熟的に先取り」した国制上の「青写真」にすぎず、日本の律令国家は、天皇を首長とする畿内政権が、地方豪族を支配する体制であったと氏は説く。

ところが八世紀半ば近くの天平時代になると、「文明としての律令制」と「基層にある未開な社会（原生的共同体）」との間の交流が始まる。その交流の進展、すなわち先取りされた文明が内実化し、それにより、建て前としての小帝国意識（Ⅱ民夷間と土浪間の区別・差異意識）が希薄化していくことを通じ、やがて平安時代前期に一つの安定したレジームができあがる。この時期こそが、日本の歴史・文化にとって「古典文化」¹²が形成される時代だったなどの点が提起される。

このように吉田説においては、石母田首長制論の巧みな継承と読み替えがおこなわれ、それに代わって社会人類学と日中律令（法制）比較の方法が取り入れられた。これにより律令国家を古代国家の完成形態とみなすそれ

までの通説的理解は否定され、中国と比較した「未開な社会」に対応した「青写真としての律令制」、いわば外見上とは別の、「遅れた形の古代国家」という見方が示された。また、これまでの古代国家論で議論されてきた国家形成と内的矛盾との関わり、あるいは国家形態と社会との関連性をみる視角は、事実上、捨象されるに至る。

その一方で、「文明」（律令制）と「未開」（首長制・共同体）の交流という新たな歴史理解の方法が持ち込まれ、それにより古代国家の完成（＝日本の「古典文化」の形成）を、もっと遅くみる見通し（平安前期説）も打ち立てられた。

（3）吉田孝説以降の研究動向

このように吉田説は、一定のダイナミズムをそなえた古代史理論となっている。しかもそれまでの通説と一八〇度異なる新しい見方が含まれていた。それゆえに多くの古代史研究者を惹きつけ、現在に及ぶまでたくさんの継承者を生み出した。この吉田説以降の研究動向をなげめると、いくつかの傾向を読み取ることができる。それらの特徴として、以下のような点がある。

第一に、吉田氏の提起を受け、とくに一九九〇年代以降、氏に倣った日唐比較律令研究や比較国制史研究が盛んになった事実がある。

ここでは律令条文・礼制・畿内制・都城制・財政制度など、日唐間に共通する法や制度に光があてられ、そのズレや修正・改変の問題をめぐり、稠密な実証成果が蓄積されている。¹³二〇〇〇年代になって刊行された歴史学研究会・日本史研究会共編の日本史講座第二巻『律令国家の展開』では、日唐律令の比較研究を試みた坂上康俊論文「律令国家の法と社会」が、その冒頭に配された。¹⁴

あとがき

本書は、二〇一三年二月、神戸大学に提出した学位請求論文「日本古代国家の社会編成と地域社会」がその骨格をなしている。審査していただいた主査の市澤哲先生、副査の奥村弘・福長進・古市晃・今津勝紀の各先生方にあつく御礼申し上げます。また執筆にかかるまでの過程で、さまざまなご指導と励ましを賜った鈴木正幸・高橋昌明の両先生にも御礼申し上げます。

神戸大学の博士課程在学中から、何度も論文を仕上げるように指導を受けていた。しかし生来怠惰である筆者は、なかなか一歩前へ踏み出すことができなかった。関西近辺の研究者仲間が学位論文をまとめ、つぎつぎに自著を上梓されていくことが、大きな励ましや刺激にもなった。しかしそれが一方ではあせりにもつながり、興味が分散して、何も書けない時期もあった。その点で本書は、著者の「苦節二十年」の結晶と自ら考えている。

古代史に興味を持ち始めたのは、高校生の時からであったが、本格的に歴史学を勉強し始めたのは、滋賀大学経済学部に入學してからである。その頃の滋賀大学には、北欧初期社会史研究者の熊野聰先生がおられ、複合的世界史の見方やその移行の論理、国家論や共同体論について教わった。卒業論文は日本古代史を扱ったが、何分にも、古代史料の基礎的な知識と読解力を身につけておらず、内容は「理論」中心の空虚なものとなってしまう。そこで卒業後、ふたたび神戸大学文学部に学士入學して、日本史を一から勉強し直すことにした。

神戸大学に入學後の恩師は戸田芳実先生であった。先生からはつねづね、①実際に現地を歩くこと、②東アジア

ア世界史の視点に立つこと、③つぎの時代も見渡しておくこと、の三点の重要性について指導された。このうち③について、ある日先生が、「古代史と中世史の間では、富豪層の理解に大きなズレがある」と仰ったことがある。何気ない一言ですぐには何も考えられなかったが、結局この言葉をきっかけに、その後、本書でも扱った「力田」や農民規範の問題にアプローチするようになった。先生はすでに鬼籍に入られているが、改めてその学恩に感謝したい。

学問生活の前半期のテーマは、国家論や土地制度史であったが、研究の方向性が地域史研究に向かいだしたのは、一九九五年に起きた阪神・淡路大震災をきっかけとする。被災した歴史資料の救出・保全のボランティア活動や、その後始まった神戸大学の地域連携事業などを通じて、兵庫県各地の自治体史の執筆・編纂に携わる機会を得た。それにより地域史料の面白さに気づくようになった。

とくに大きかったのは、『播磨国風土記』との出会いである。同風土記の地名起源説話については、約三六五例ある「地名」の比定研究は盛んであるものの、そこに引用される地方神話や伝承などの考察は、一部の国文学的研究をのぞき不十分であることを知った。

そこで、小学生時代からお世話になっている滋賀県の岡田精司先生のお宅を訪問し、神話研究や祭祀史料分析の方法を学ばせていただくことにした。岡田先生は、戸田先生と同じように、現地を歩くことの重要性を説かれ、実際に先生のご案内で、各地の祭祀遺跡や珍しい祭りの見学にいく機会にも恵まれた。それとともに先生は、柳田國男などの民俗学の研究成果を吸収することの大切さも強調された。

これにより、次第に風土記に引用される神話や伝承の魅力にとりつかれ、その地方色豊かな史料内容が、当時の信仰や祭祀儀礼など、地域社会像の復元にも役立つのではないかと考えるようになった。先生の学恩に感謝するとともに、今後さらなる精進につとめ、古代の地域社会像の解明に取り組みたいと思う。

三〇年にも及ぶ研究生生活を続けられたのは、右の恩師のほか、「愉快な仲間たち」ともいわれる、ほぼ同世代の研究者仲間との研究交流があったからである。二〇〇〇年代の初頭頃、関西を中心として、「八・九世紀研究会」という研究会を立ち上げた。その時の設立メンバーである井上勝博・今津勝紀・高橋明裕・田中聡・樽本修・中村聡・中林隆之・松下正和・毛利憲一・森岡秀人らの各氏とは、科研調査・自治体史編纂の共同調査などを通じて、いまだに楽しい研究交流が続いている。その研究成果として、二〇〇七年に『風土記からみる古代の播磨』（神戸新聞総合出版センター刊）、二〇一一年には『神戸・阪神間の古代史』（同刊）を刊行することもできた。

「八・九世紀研究会」は、現在、休会状態であるが、開催当時には、吉田晶先生と山尾幸久先生もしばしば来られ、さまざまなご意見を頂戴できた。これも誠に幸いなことであった。

また兵庫県を中心とする地域史研究に着手してからは、いちいちお名前は記さないが、県内外の自治体の文化財担当者や博物館・資料館関係者、および地元の地域史研究者からも、さまざまなご協力とご支援を賜ってきただ。それぞれの地域の研究者しか知り得ない情報や資料の提供、あるいは民俗伝承の存在などのご教示、ご案内をいただいている。また科研調査などの一環として、合同研究会や共同の聞き取り調査などもおこなっている。地域史研究を成り立たせるためには、さまざまな研究者同士の連携と信頼関係の構築が不可欠である。関係者のみなさんの学恩に感謝申し上げます。

本書の出版計画を思文閣出版にご仲介いただいたのは、大阪大学名誉教授の武田佐知子先生である。先生には、すでにこれ以前から、大阪外国語大学などの非常勤講師職の紹介など、公私にわたりさまざまなご指導を賜ってきた。この場をかりて、改めて御礼申し上げます。

本書の出版にあたっては、思文閣出版の編集担当者の田中峰人氏に多大なご迷惑をおかけするとともに、適切

なご教示を賜った。御礼申し上げます。

最後に私事になるが、筆者の学問生活を見守ってきてくれた亡き父の孝夫、郷里の滋賀にいる母の節子、生活をともに支えてくれた妻の愛、娘の水穂にも、心から感謝したい。本書を彼らに捧げたいと思う。

二〇一五年九月 大阪豊中市にて

坂江 渉

や	
八木充	430
矢嶋泉	216, 220, 221, 344
柳田國男	206, 216～8, 221, 224, 249, 272 ～4, 297, 314, 328, 338, 344～6, 380, 396
山尾幸久	21, 25, 32, 33, 228, 231, 255, 265, 267, 276, 308, 313, 317, 345, 393, 416, 419, 427, 430, 431
山折哲雄	273
山口英男	28
山根清志	108
山本一也	215, 224
山本幸司	362
山本亮	373, 394
ゆ	
弓削達	30
よ	
横田健一	270, 315, 317, 361, 393, 394, 397
横田冬彦	110
吉井良隆	346, 361

義江彰夫	231, 267, 431
吉岡真之	265
吉川聡	364
吉川真司	27, 115
吉田晶	5, 21, 25, 33, 114, 166, 228, 231～ 3, 265～8, 278, 280, 309, 310, 345, 363, 427
吉田孝	5～11, 14, 16, 19～21, 24～8, 30, 32, 33, 121, 122, 127, 130, 142, 143, 160, 161, 166, 229, 230, 232, 233, 235, 264, 266, 278, 428, 432
吉田靖雄	428
吉村武彦	25, 29, 109, 117, 122, 160, 162, 222, 239, 240, 269, 271～3, 397
米田雄介	364
り	
李成市	31
わ	
和歌森太郎	313
渡邊昭五	221, 272
渡辺信一郎	63, 74, 78, 79, 107～9, 111, 363

西村元佑	106
西本昌弘	28, 318, 358, 363, 364, 427
西谷地晴美	115, 225
西山良平	29, 281, 309
仁藤敦史	318, 374, 395, 397
ぬ	
布目順郎	109
の	
野村忠夫	99, 114, 115
野本寛一	316
は	
早川万年	27
速水融	223
原田信男	354, 362
原秀三郎	3, 25, 29
春名宏昭	26
春成秀爾	316
ひ	
樋口忠彦	221
平石充	244, 245, 271
平井晶子	223
平川南	28, 167, 265
平野邦雄	270, 271
平野卓治	361, 362
平林章仁	316
ふ	
ファリス、W	115, 210, 225
深谷克己	110
福井重雅	43, 63, 64
福岡猛志	160
福島繁次郎	44, 64, 106
服藤早苗	28, 215, 275
藤田徳太郎	223
古市晃	29, 167, 394, 404, 427, 428
ほ	
保立道久	109, 225, 275
堀尾尚志	110

堀敏一	30, 31
本郷真紹	28
ま	
真壁忠彦	345
真壁霞子	345
真下厚	220
松尾光	372, 394
松尾充晶	237
松下正和	397
松田和晃	397
松原弘宣	364
松前健	268
松村武雄	216, 268, 312, 362, 393
松本直子	276
松本信弘	112, 216, 268
黛弘道	345
丸山裕美子	26, 82, 110
み	
三宅和朗	115, 225
三浦佑之	218
水林彪	26
三谷栄一	221, 272
三谷芳幸	107, 108
蓑島栄紀	32, 153, 168, 427, 429
宮瀧交二	28
宮田登	110
宮本常一	220, 221
む	
武藤武美	221, 272
村井章介	362
村井康彦	169
も	
茂木雅博	269, 271
森朝男	195, 208, 222, 224, 272
森公章	362
森浩一	344, 362
守屋俊彦	219

鈴木正幸 107
鈴木靖民 29, 397

せ

瀬川清子 362
關尾史郎 44, 64
関和彦 21, 33, 222, 231, 239, 256, 267～
9, 272, 277, 283, 310, 431
関口裕子 28, 207～10, 215, 222, 224, 225,
265, 274, 276
関敬吾 216
瀬間正之 268

そ

曹咏梅 220
蘭田香融 346

た

高木敏雄 268
高木博志 110
高島英之 28
高嶋弘志 362, 363
高橋明裕 361, 363
高橋学 333, 345
高群逸枝 276
瀧音能之 372, 394
瀧川政次郎 164, 361, 362
武田佐知子 50, 65, 215, 223, 363, 427
武田祐吉 219
田島公 363, 364
辰巳和弘 315
辰巳正明 220, 272
館野和己 168, 272, 391, 397
田中聡
32, 143, 144, 158, 161, 166, 169, 409, 429
田中眞吾 345
田中卓 269
田中俊明 345, 346, 427
田中禎昭 115, 225, 232, 234, 253, 267, 275
谷口義介 63
田村憲美 115, 211, 225

つ

次田真幸 219, 222
津田左右吉 9, 29, 261, 279
津谷典子 223
都出比呂志 10, 29, 265, 271

て

寺内浩 56, 66, 215
寺崎保広 165

と

東野治之 55, 66
遠山茂樹 12, 30
戸田芳実 37, 62, 120, 121, 143, 146, 147,
152, 153, 160, 161, 166, 168, 169, 412, 429
土橋寛 184, 186, 196, 199, 202, 216, 219
～22, 246～8, 256, 268, 270～4, 276～8, 432
虎尾俊哉 361, 362
鳥居幸雄 362

な

内藤英人 217
直木孝次郎 224, 225, 318, 393
中川ゆかり 346
中田興吉 37, 62, 161
中田祝夫 224, 432
中野高行 362
中林隆之 308, 318, 393, 427, 432
中村太一 369, 397
中村英重 362
中村順昭 309
中村生雄 316
中山太郎 216, 222
長山泰孝 164
成沢光 57, 66
南部昇 27, 265

に

新納泉 276
西嶋定生 31, 72, 106
西田長男 268
西野悠紀子 226, 276

小倉慈司 272
 落合重信 361
 小野勝年 109
 小野真一 269
 大日方克己 110

か

影山輝國 57, 66
 堅田理 164
 勝浦令子 113
 勝田至 396
 加藤友康 29, 160, 397
 鐘江宏之 309
 金子修一 107
 狩野久 111, 167
 鎌田重雄 63, 73, 106
 鎌田元一 58, 66, 94, 95, 112, 114, 134, 164, 167, 265, 266, 290, 312, 430, 431
 紙屋正和 106
 亀井正道 345
 亀田隆之 37, 38, 44, 62~4, 161
 川口勝康 427
 川田順三 278
 川辺賢武 361

き

菊地照夫 292, 294, 313
 菊池英夫 31
 菊地康明 312
 岸俊男 8, 27, 397
 岸本道昭 393, 396
 北村優季 26
 鬼頭清明 21, 31, 33, 231, 267, 312, 430
 木下太志 223, 276
 金燁 63

く

日下雅義 344
 櫛木謙周 28, 110, 111, 160
 工藤隆 220, 271, 272
 熊谷公男 161
 熊田亮介 168
 熊野聰 30

倉地克直 110, 274
 黒沢幸三 272
 黒田俊雄 13, 14, 30
 桑原正史 115

こ

小島宏 223
 小嶋芳孝 347
 小谷汪之 30
 小林茂文 274
 小林昌二 21, 33, 231, 233, 267, 430
 小林基伸 396
 小松和彦 311

さ

坂上康俊 7, 28, 161
 栄原永遠男 114, 345, 362
 坂江涉 27, 32, 107, 224, 266, 276, 312, 316, 317, 345, 394, 395, 397, 431
 坂田聡 267
 坂本太郎 344
 酒寄雅志 363
 鷺森浩幸 27, 28, 397, 398
 桜井満 220, 272
 笹川進二郎 363
 笹生衛 28, 271, 432
 佐藤宗諄 29
 佐藤信 216, 220, 221, 344
 佐原真 316
 沢山美果子 274

し

塩谷修 269
 品田悦一 223, 272
 新川登亀男 27, 225, 275

す

菅原征子 62, 65, 215, 223
 杉本一樹 27
 鈴木景二 105, 106, 426, 432
 鈴木隆介 344
 鈴木拓也 154, 155, 162, 169, 429
 鈴木哲雄 169

研究者名索引

あ		216, 224, 225, 228, 265, 274 ~ 6, 312, 375, 376, 395, 430
青木和夫 3, 25 青木紀元 268, 289, 312 明石一紀 163 秋本吉郎 216, 239, 277, 361 浅野充 28 阿部猛 114 網野善彦 110, 165 新井恒易 315 荒井秀規 28, 429, 432 荒木敏夫 112, 303, 317 安良城盛昭 8, 27 有富純也 106 安東康宏 345		岩崎和子 216
		う
		上田早苗 63, 74, 107, 108 上田正昭 216, 268 上原専祿 11, 30 ウォーラーステイン、I 30 臼田甚五郎 221, 272 内田るり子 220, 272 梅沢重昭 265 梅村喬 65 浦田(義江)明子 8, 27, 430
		え
		江村治樹 59, 60, 66 遠藤耕太郎 220
い		
飯泉健司 310, 311, 379, 380, 395 飯沼二郎 110 池田温 26 居駒永幸 219 石井克己 265 石上英一 25, 26, 32 石母田正 3~6, 8, 10, 14~22, 24, 25, 29~32, 78, 92, 93, 96, 104, 108, 111, 113, 114, 148, 159, 164, 165, 167, 169, 229~33, 235, 260~6, 268, 278, 279, 283, 284, 311, 356, 363, 401, 402, 407, 412, 427, 429, 432 泉谷康夫 217 市大樹 429, 431 井上薫 109, 361, 428 井上勝博 167, 278, 279 井上寛司 311 井上通泰 395 井上光貞 3, 25, 428 李炳魯 63 今泉隆雄 32, 165, 168 今津勝紀 27, 28, 30, 115, 210~2, 215,		
		お
		大隅清陽 26 大関武 269 太田秀通 12~4, 18, 30, 412, 429 太田愛之 62 大津透 26, 27, 109 大場磐雄 269 大林太良 268 大町健 5, 21, 25, 28, 33, 62, 112, 160, 231, 232, 267, 271, 280, 309 大山喬平 316, 317, 414, 430 大和田建樹 223 岡崎玲子 164 岡田精司 267, 268, 273, 295, 296, 310, 311, 313~5, 344~6, 432 岡部隆志 220 沖森卓也 216, 220, 221, 344 奥田俊博 430 奥山貴 373, 394

——卷6 - 1065	344, 361
——卷6 - 1067	361
——卷9 - 1801～3	226
——卷9 - 1809～11	226
——卷15 - 3609	346
——卷16 - 3786～87	226
——卷16 - 3788～90	226
——卷16 - 3808	221
——卷16 - 3885～86	277
——卷19 - 4211～12	226
——卷20 - 4493	109

み

『御野国加毛郡半布里戸籍』	210, 211, 275
---------------	---------------

り

『律』逸文・捕亡律非亡浮浪他所条	162
——逸文・捕亡律部内容止他界逃亡浮浪者条	162
『令義解』考課令国郡司条	105
——戸令為里条	105
——戸令国守巡行条	64, 65, 105
——戸令造戸籍条	110
——戸令戸逃走条	162
——職員令大国条	105
——神祇令季夏条	20
——僧尼令修營条	164
——僧尼令准格律条	164
『令集解』儀制令春時祭田条	

255, 267, 282, 306, 309	
——田令外官新至条	110

る

『類聚国史』卷54、弘仁14年3月甲戌条	215
——卷54、神護景雲2年6月乙未条	215
——卷83、天長7年4月戊辰条	162
『類聚三代格』卷1、延暦17年10月11日太政官符	432
——卷3、養老6年7月10日太政官奏	113, 165
——卷7、養老3年7月19日格	113, 135
——卷8、延暦16年8月13日太政官符	163
——卷12、延暦4年6月24日太政官符	163, 166
——卷12、天平8年2月25日勅	66, 94, 128
——卷12、天平8年2月25日勅所引の養老5年4月27日格	94, 163
——卷17、弘仁2年8月11日太政官符	163, 429
——卷17、弘仁2年8月11日太政官符所引の和銅8年5月1日格	113, 162
——卷19、延暦6年正月21日太政官符	168
——卷19、弘仁10年6月2日太政官符	225

10月辛酉条	346
——神武天皇即位前紀	313
——崇神天皇10年9月条	216
——仲哀天皇8年正月壬午条	346
——神功皇后摂政元年2月条	344
——応神天皇22年3月丁酉条	346
——仁德天皇即位前紀	397
——仁德天皇16年7月戊寅朔条	217
——履中天皇5年10月甲子条	344
——雄略天皇6年3月丁亥条	109
——雄略天皇14年4月甲午朔条	363
——継体天皇元年3月戊辰条	109
——推古天皇16年6月丙辰条	351
——推古天皇18年10月乙巳条	362
——推古天皇18年10月丁酉条	362
——舒明天皇4年10月甲寅条	351, 363
——皇極天皇2年10月戊午条(第107歌謡)	257
——皇極天皇3年6月乙巳条(第108歌謡)	197, 269
——皇極天皇3年6月是月条(第111歌謡)	251
——大化2年正月甲子朔条	25, 309, 364
——大化2年3月甲申条	25, 88, 112, 309
——天智天皇2年3月条	427
——天智天皇9年2月条	160, 428
——天智天皇9年4月壬申条(第124歌謡)	200, 277
——天武天皇元年7月条	314
——持統天皇称制前紀・朱鳥元年10月己巳条	168
——持統天皇称制前紀・朱鳥元年10月丙申条	168
——持統天皇3年閏8月庚申条	160, 428
——持統天皇4年9月乙亥朔条	160
——持統天皇5年8月辛亥条	219
『日本文徳天皇実録』嘉祥3年11月丙申条	162
——仁寿元年正月庚子条	162
『日本霊異記』上巻-7	428
——中巻-33	224
——中巻-34	225
——下巻-14	140, 165

は

『播磨国風土記』揖保郡揖保里粒丘条	286
——揖保郡談奈志里条	293
——揖保郡大法山条	397
——揖保郡少宅里条	431
——揖保郡意比川条	366, 377
——揖保郡香山里条	286
——揖保郡上岡里条	366
——揖保郡日下部里立野条	367
——揖保郡桑原里琴坂条	367
——揖保郡枚方里大見山条	313
——揖保郡枚方里佐比岡条	367, 377
——揖保郡林田里条	286
——印南郡益気里条	430
——賀古郡比礼墓条	367, 395
——賀毛郡飯盛嵩条	297
——賀毛郡雲潤里条	301
——賀毛郡修布里条	430
——賀毛郡玉野村条	176
——神前郡多駝里梗岡条	218
——讃容郡速湍里凍野条	286
——讃容郡邑宝里条	286, 430
——讃容郡条冒頭	286, 317
——讃容郡柏原里笠戸(川)条	286
——飭磨郡飭磨御宅条	367
——宍禾郡石作里伊加麻川条	286
——宍禾郡雲箇里波加村条	286
——宍禾郡柏野里飯戸阜条	286
——宍禾郡柏野里伊奈加川条	286
——宍禾郡比治里宇波良村条	286

ひ

『常陸国風土記』香島郡条	187, 242, 243, 270
——久慈郡条	268
——筑波郡条	268

ま

『万葉集』巻3-389	361
——巻3-413	346
——巻3-449	361
——巻6-947	346

——養老6年7月己卯条	113
——神亀元年3月甲申条	112
——天平2年4月甲子条	162
——天平3年7月乙亥条	162
——天平3年8月癸未条	113
——天平6年2月癸巳朔条	219
——天平7年閏11月戊戌条	66, 215
——天平8年11月丙戌条	110
——天平10年10月己丑条	113
——天平14年5月庚午条	64
——天平15年5月乙丑条	162
——天平15年10月乙酉条	114
——天平16年7月戊戌条	162
——天平18年3月己未条	66
——天平18年3月丙子条	245
——天平21年2月丁酉条	113
——天平21年4月甲午朔条	66
——天平勝宝6年10月乙亥条	162
——天平宝字元年7月戊午条	168
——天平宝字2年2月己巳条	67
——天平宝字3年5月甲戌条	112
——天平神護元年5月庚戌条	375
——神護景雲元年8月癸巳条	66
——神護景雲3年正月己亥条	164
——神護景雲3年6月癸卯条	341
——宝亀元年3月辛卯条	219
——宝亀3年12月壬子条	215
——宝亀4年3月己丑条	162
——宝亀5年正月庚申条	169
——宝亀10年9月戊子条	162
——宝亀11年3月丁亥条	168
——宝亀11年10月丙辰条	139
——天応元年6月戊子朔条	168
——天応元年正月辛酉条	151
——延暦2年6月辛亥条	160, 164, 166, 167, 428, 429
——延暦3年10月戊子条	115
——延暦5年8月甲子条	162
——延暦9年10月癸丑条	144, 160, 167, 428, 429
『続日本後紀』承和7年3月乙未条	162
——承和9年4月己巳条	362
——承和9年4月癸酉条	362

『新撰姓氏録』	346, 397
す	
『住吉大社神代記』	322, 346
せ	
『政事要略』卷57、交替雑事	126, 409
『摂津国風土記』逸文、住吉条	327
——逸文、美奴壳松原条	322
そ	
『宋書』卷97、蛮夷伝倭国条	427
た	
大同元年牒（『新抄格勅符抄』神事諸家封戸）	270
『大唐六典』卷3、戸部尚書条	106
——卷30、京兆河南太原牧及都督刺史条	68, 73
『丹後国風土記』逸文、与謝郡条	327
て	
天平宝字2年正月12日付「越前国坂井郡司解」	317
と	
『東大寺諷誦文稿』	426
に	
『日本歌謡類聚』下巻	223
『日本紀略』延暦14年7月戊寅条	396
『日本後紀』延暦15年8月戊辰条	396
——延暦18年12月癸酉条	396
——弘仁2年閏12月辛丑条	167
——弘仁4年2月戊申条	161
『日本三代実録』貞観7年12月9日丙辰条	314
——貞観11年12月8日辛卯条	396
——元慶5年2月8日丙戌条	64, 114, 166
——元慶7年4月28日甲子条	364
——元慶7年5月5日庚午条	362
——元慶7年5月10日乙亥条	362
『日本書紀』神武天皇即位前紀甲寅年	

史料名索引

い	
『出雲国風土記』意宇郡条(冒頭)	283
——嶋根郡条	268
——仁多郡条	268
——仁多郡三処郷条	311

え	
『延喜式』卷21、玄蕃寮諸蕃条	323, 350
——卷21、治部省蕃客条	353, 362
——卷22、民部省(上)貢限条	169
——卷24、主計寮(上)	169
——卷50、雜式	65

お	
『尾張国郡司百姓等解文』	97

か	
『菅家文章』	165
『漢書』惠帝紀4年正月条	38, 71
——文帝紀2年正月丁亥条	74
——文帝紀12年3月条	38, 42, 71
——文帝紀13年2月甲寅条	74
——食貨志	41, 63, 77, 108
——高后紀元年2月条	38

き	
『紀氏家牒』	269

く	
『傀儡子記』	109
『旧唐書』職官志	107

こ	
『後漢書』礼儀志	63, 107
『古事記』上卷、海神宮訪問の段	396
——景行天皇段	375, 395
——景行天皇段(第31歌謡)	213, 248

——応神天皇段	317, 394
——応神天皇段(第44歌謡)	250
——仁徳天皇段	344
——仁徳天皇段(第64歌謡)	199
——允恭天皇段(第84歌謡)	196
——允恭天皇段(第87歌謡)	197
——雄略天皇段	177
——雄略天皇段(第92, 94歌謡)	201

さ	
『三国志』魏書東夷伝韓条	315
——魏書東夷伝倭人条	427

し	
『下総国葛飾郡大嶋郷戸籍』	416
『続紀歴朝詔詞解』	65
『続日本紀』大宝3年11月癸卯条	64
——大宝3年7月甲午条	67
——和銅元年正月乙巳条	173
——和銅4年9月丙子条	112
——和銅5年正月乙酉条	112
——和銅5年5月甲申条	65, 83, 164
——和銅5年9月己丑条	148, 166
——和銅5年10月乙丑条	112
——和銅6年3月壬午条	112
——和銅7年11月戊子条	215
——和銅8年5月辛巳朔条	90, 110, 162
——靈龜元年10月乙卯条	109
——靈龜2年4月乙丑条	112
——靈龜3年4月壬辰条	91, 428
——靈龜3年5月丙辰条	113
——養老元年4月壬辰条	110, 165
——養老3年7月庚子条	164
——養老4年3月己巳条	112, 113
——養老5年2月甲午条	66, 113
——養老5年4月癸卯条	45, 85, 95, 164
——養老5年8月癸巳条	165
——養老6年閏4月乙丑条	114

れ	わ
礼制 7, 78	童謡(謡歌) 196, 200
ろ	笑い 196, 203, 206, 213, 250, 251, 258, 274, 277, 278, 421
老女 179, 183, 198, 240, 251, 252, 262, 264, 421	笑わせ歌 200, 247
老人歌 198, 204, 209, 213, 247	悪口(歌) 199~203, 205, 207, 209, 212~4, 247, 253~5, 258, 264, 422

ま	
(勝鹿)真間娘子	208
み	
未開な社会(未開性)	6~9, 11, 14, 16, 260
神酒	295, 323, 351~6, 360
巫女	176, 182, 201, 204, 213, 422
(摂津国)汶売神社(敏馬神社)	348~50, 355, 359
敏売	322, 323, 332, 342, 348, 350~2, 354~8, 360
(摂津国)美奴売松原	322
(摂津国)美奴売山	322, 350
御野国加毛郡半布里戸籍	210
(出雲国)美保神社	326, 327
美作道	307, 368, 369, 385~7
(阿波国)御間都比古神社	311
弥麻都比古命	192, 285~7, 295, 311
身持ちの堅さ(貞操・貞淑・貞節・貞淑性)	201~4, 213, 214, 254, 258, 264, 422
(大和国)御諸	177, 179, 180, 186, 201
三宅連笠雄麻呂	100
(大和国)美和河	177, 179, 181, 186
(大和国)三輪山	185, 194, 195, 197, 201
(大和国)三輪地方	186, 204, 206, 214
三輪引田君	181
民夷間連携(同盟)	152, 153, 155~9, 412, 413
民夷雑居	153
民会	4, 229
む	
(摂津国)務古水門	321, 322, 333, 342, 359
陸奥国上治郡	149
陸奥国伊治城	132, 133, 150
村	239, 255, 282, 306, 307, 414, 419
村占め神話	291, 305, 312
村首	5, 233, 234, 280, 306
も	
物忌み	337, 338
物部連道吉	49, 98

や	
八重子の刀自	200, 258
社首	5, 231~4, 280, 282, 306
八十島祭	325
八田若郎女	199
八束水臣津野命	283, 292
大和赤石連	341
大和国造	341
ヤマトタケルノミコト	248
ヤマトトヒモソノヒメ	176
倭屯田	390, 391
山部小楯	177, 193
ゆ	
雄略天皇	82, 177, 179, 183, 186
斎種	304, 419
よ	
養蚕	41, 70, 75, 77, 81, 82
依網池	250
予祝	196, 236, 242, 292, 294, 299, 419
(兵庫県)丁瓢塚古墳	373
黄泉戸喫	354
依り代	295, 332
(沖縄県)与論島	246, 247
り	
力田	37~66, 69, 71~5, 81, 84, 85, 87, 89, 94~104, 135, 138, 145, 157, 173, 174, 404, 407, 425
(中国の)力田	38, 42~5, 71, 78, 80, 87
力田の規範要件	51~4, 69, 83~5, 135~8, 404, 405
力田之輩	37, 46, 97, 119, 146, 157
理想的な農民像	51, 61, 70, 80
利他行	426
律令国家の社会編成原理	18, 69, 96, 116, 122, 142, 145, 147, 156, 157, 159, 404, 407, 413
掠奪的交易	155, 411, 424

ね
根日女 176, 177, 180～4, 186, 191, 193,
194, 203～7, 214

の
農・工商間分業の不均等発展 77, 80, 86, 103
農桑労働への専念 43, 52, 53, 60, 68, 70,
73, 75～7, 82～5, 87, 96, 103, 104, 135, 404,
405
納粟授爵制 76
農料の下行 304

は
配偶者選び 236, 255, 264, 421
励まし歌 198
(丹後国)橋立明神 329
(大和国)箸墓 176
花の盛りは短い
199, 202, 205, 212, 254, 255, 422
はねつけ歌 197, 198, 247
速吸門 341
祓え清め・祓禊ぎ 323, 352, 353
播磨直 309
針間国造 181
(兵庫県)半田山 298, 387
反律令闘争 152, 153, 156, 412

ひ
(大和国)引田 177, 180, 181, 186, 194
(大和国)曳田神社二座 195
引田部赤猪子
175～86, 194～6, 201, 203～7, 214
比古神 238, 367, 377
美人薄命 183
比売神・比女神 238, 367, 377
百姓の悪状四条 135
百姓の「挙」「罰」 135～7
百姓の善状四条 135
(播磨国)比礼墓 176, 375, 376
(肥前国)褶振峯 176
広比売命 192, 285～7

ふ
不均等発展の理論 13, 15, 16, 152, 401
(兵庫県)福田片岡遺跡 384
俘軍 150, 152
富豪層 37, 46, 50, 61, 120, 146, 147
富豪浪人 120, 121, 143, 147, 149, 153, 411
俘囚 152～4, 410～2
仏教結社 91, 92, 97, 103, 104, 137, 406
部内巡行
52, 53, 60, 61, 69, 83, 84, 100, 134, 404
浮浪(人)帳 121, 125～9, 139, 141～5,
148, 156, 408, 409
浮浪人(浪人) 22, 57, 58, 81, 94, 95, 117
～22, 124, 128～34, 138～47, 153, 156～
8, 399, 405～12, 424
浮浪人認識 3, 18, 124, 134, 138, 139
浮浪人の長 140, 141
浮浪人身分の積極的公認論
121, 127, 128, 130, 139, 141, 156, 157, 408
不論土浪(策) 117～24, 126, 142～7, 149,
151, 153, 156, 407～13
不論民夷(策) 121～3, 408
分業論的社会編成原理 78, 86, 103, 404

へ
平均寿命 101, 210, 213, 253, 422
平民 58, 118, 120, 128
(大和国)平群 248, 249
編戸民 120, 128, 142, 148, 152, 153, 156, 408

ほ
火明命 308, 328
伯耆国造 367
伯耆国 366, 368, 378, 385
(兵庫県)坊主山
379, 381, 382, 385, 387, 388
朋党 91, 92, 406, 407, 412
朋友 260, 425
法隆寺 381, 391
北方社会
18, 23, 149, 154, 158, 402, 411, 413

183, 185, 203, 204, 213, 262
前部宝公 49, 52, 98

そ

双系制 6, 19, 230
族長神 283
村内婚 240
村法 260
村落共同体

4~7, 19~22, 230, 233, 259~64, 280~4
村落祭祀 235, 280, 292, 421, 425
村落首長制 5, 21, 231~3, 280, 281, 423

た

対偶婚 175, 198, 207, 209, 212
大智度論 181
多賀城 149, 150, 154
(常陸国)高浜 188, 239
多産・多死 210, 213, 252, 254, 255, 263,
417, 418, 420, 422, 423

但馬国造 367, 370, 371, 374
崇り神 323, 372
(兵庫県)龍子三ツ塚古墳群 373
(播磨国)玉丘 177, 178, 193, 206, 214
(兵庫県)玉丘古墳 178
(上総周淮)珠名娘子 208
男耕女績(夫耕婦績) 41, 52, 70, 81, 82
丹後国与謝郡速石里 327, 328

ち

地域世界史(構想) 11~4, 412
地縁 4, 20, 21, 229, 231, 233~5, 240, 259,
261, 263, 281, 406, 414, 418, 423
智頭往来 307, 368, 385
趙過 41
朝貢 18, 154, 155, 356, 357, 402, 411
朝集使 74, 83, 84, 90
晁錯 76, 77

つ

杖立て 292~4, 299, 305, 419
(兵庫県)筑紫大道遺跡 384
筑紫大道 381, 382, 384, 385

(常陸国)筑波山
187, 188, 237, 239, 240~2, 249, 250
(大和国)海柘榴市 239

て

天人相関 55, 56

と

道昭 406, 407
当処苦使 57, 129, 134, 140, 141, 143
当所編附 121, 125, 139
屠脰之類・屠兒視 143
徳政・徳治 55, 56, 59, 90
土断法 57, 58, 94, 95
土人(土民) 81, 117~21, 132, 142, 144~6,
148, 157, 408~10
土浪の安定的両立 153, 412
土浪の融合論 121, 143, 145, 158, 408, 409

な

那賀寒田郎子 187, 188, 237
(摂津国)長渚崎 323, 332
中臣宮地連烏麻呂 354
謎かけ歌 197, 247
難波津 323, 342, 351, 352, 359
難波館 323, 351, 352, 354~7, 360
隠び妻 176
(播磨国)南毗都麻島 375
鯨(脂) 143, 286, 301, 367
(千葉県)鳴神山遺跡 425

に

新嘗・ラスクニ 284, 295, 296
(摂津国)西宮戎神社 341
日中(日唐)比較
6~11, 14, 16, 103, 260, 261, 279, 401
丹津日子の神 301

ぬ

額田部連 366, 377, 378, 388~91
沼名棕の長岡の前 327
蓐(ジュンサイ) 250, 251

佐比の神(賽の神) 381, 385, 389
 佐比持神 380
 サヨツヒメ(贅用都比売) 288, 299
 (播磨国)佐用都比売神社 299, 300
 サヲネツヒコ 341
 山陰道 368, 369, 392
 三階教 159, 406
 三十八年戦争 149, 150, 154
 山陽道
 307, 368, 369, 380, 381, 384, 385, 387
 三老 39~43, 59, 71, 72

し

(滋賀県)塩津港遺跡 343
 シカ(鹿・宍)
 190, 193, 286, 294, 299~302, 304, 306, 367
 鹿皮・鹿角 300
 鹿跡御坂(志戸坂峠) 369
 磯鹿(志賀)の海人 339
 飴磨御宅(屯倉)
 307, 308, 367, 370, 371, 374, 391
 (石川県)寺家遺跡 343
 自己の経験に事寄せる
 195, 198, 249~52, 421
 市籍 79, 116
 士籍 116
 自然村落 8, 230, 291, 414, 417, 420
 自前の規範意識 102, 262~4, 422, 423
 (出雲国)漆仁の川辺 189, 238
 士農工商(四民) 43, 70, 78, 79, 86, 90,
 91, 103, 116, 404, 406
 支配者風刺 259, 264, 277, 278
 支配-庇護関係 23, 306, 420
 下総国葛飾郡大嶋郷 416
 社会的弱者の救済 48, 52, 53, 58, 60, 83,
 84, 94, 96, 99, 100, 103, 104, 135, 404, 405
 社会的分業 77~9, 85, 87, 103
 社交(性) 241, 248
 奢侈的風潮 76
 周辺(周縁)・辺境 12~4, 18, 148, 156
 ~9, 356, 357, 374, 402, 411, 412, 424
 儒教的家族道徳
 51, 53, 83, 84, 135, 136, 262, 404

儒教的婚姻道徳(規範) 182, 183, 213
 守護神(霊)
 289, 302, 329, 334, 337, 339, 390, 403, 418
 種子(種籽)の分与・給付
 41, 75, 298, 303, 304, 306
 首長間交流 375, 376, 392
 首长制論 16, 32, 278, 279
 掌客 354, 355
 常挙 42, 54, 61, 73
 祥瑞 39, 40, 42, 43, 45, 46, 54~6, 60, 61,
 85, 98, 131, 151
 小中華思想(小中華帝国意識)
 6, 121, 144, 152, 355, 356, 360, 409
 食膳(儀礼) 254, 294~6, 418~20
 抒情的歌謡 184, 195, 196, 248, 421
 女性の婚姻規範 173, 175, 176, 203, 208,
 210, 212, 213, 253~5, 264
 自立的な共同体組織 260~4, 423
 神功皇后 322, 335, 339, 340
 人口維持
 102, 252, 254, 255, 263, 280, 281, 420, 423
 人民の交通
 17, 149, 151~9, 402, 407, 410~13

す

住吉神(住吉三神) 321, 334, 335
 住吉大社 322, 334, 340, 359
 住吉津(墨之江) 322, 334, 359

せ

制挙 42~4, 46, 54, 60, 61, 72
 性教育 198, 251, 264, 421
 聖獣 300, 301, 304, 306
 性的解放 187, 236, 421
 藉田(籍田)
 40, 41, 72, 74~7, 80~2, 86, 103
 摂津国菟原郡 341
 摂津国雄伴郡(八部郡) 342, 350
 摂津国河辺郡 340
 摂津国武庫郡津門郷 341
 刹那的な性愛(生殖行動・性関係・性交渉)
 175, 209, 263, 421
 節婦 46, 48~51, 55, 73, 98, 151, 173, 174,

久米舎人妹女 49, 52, 98
 (大阪府) 桧橋総社 341
 倉人水守 341
 (茨城県) 厨台遺跡 243~5
 (群馬県) 黒井峯遺跡 227~9, 231, 280
 郡領 68, 92, 99, 174, 281

け

景行天皇 367, 375
 継体朝・継体天皇 82, 308, 370
 計帳 4, 8, 121, 123, 126, 127, 404, 409
 ケガレ 352, 353
 血縁的・族制的関係 92, 260, 261, 406
 結婚適齢期 199, 209, 252, 421
 ゲルマン社会 4, 229, 260, 261
 賢者(賢人) 42~44, 59~61, 72, 101
 元正天皇 57, 58
 原生的共同体 6, 19, 230
 健全な(健康的な)恋愛 212, 213
 献物叙位(制度) 99

こ

庚寅年籍 104, 405
 郷戸籍 79, 86, 116
 庚午年籍 95, 104, 116, 405
 孝子 44~51, 55, 73, 98, 151, 173
 口承(性) 183, 184, 186, 206, 283
 交通機能の独占 16, 17, 402
 郷戸 8, 228, 229, 418
 皇民 118, 144, 145, 148, 149, 151, 153,
 157, 408~10, 412
 郷里制 255, 414, 416
 国際交通(論) 17, 18, 69, 105, 159, 343,
 399~404, 407, 410~13
 国造 189, 239, 256~8, 260, 281, 283, 420
 国造黒田別 193
 国造許麻 178, 181, 193
 国例 119, 121
 穀霊信仰 302, 304, 306
 越部屯倉 370
 五十戸一里制 229, 291
 戸籍(編戸) 4, 8, 58, 78, 79, 86, 94~6,
 104, 116, 117, 121, 125~27, 129, 145, 228,

404, 405, 407, 408, 416

子育て 212, 417
 古代の野 191~4
 (丹後国) 籠神社 328
 個別経営 37, 46, 233
 伊治公皆麻呂 149~52, 155~7, 411
 婚姻規範(モラル) 174, 175, 212, 253, 255
 婚姻儀礼(儀式) 19, 175, 198, 208
 婚姻・出産 191, 236, 423
 婚姻制度 175, 207~10
 婚姻(結婚)促進 240, 249, 255, 262, 264
 婚姻同盟(関係)の起源譚 185, 186, 206, 214
 婚姻(結婚)媒介 249, 253, 256

さ

災異 39, 40, 42, 43, 56, 57~61
 再婚(再々婚) 173, 204, 207, 211, 212,
 240, 255, 263, 422
 祭祀共同体 255, 419
 祭主 304, 389, 419, 420
 在地首長制
 3~6, 19, 229~31, 233, 256, 264, 423
 (播磨国) 佐岡 189
 (播磨国) 佐岡山 381, 382, 384
 盛りの年 177, 179, 180, 183
 サキ(崎・前・埼・岬・碕)
 327~9, 332, 333, 342, 350, 357
 先取り(論) 6, 14, 16~8, 159, 401
 (大和) 桜児 209, 214
 (播磨国) 佐々山・笹山・楽々山
 367, 378, 379, 381, 382, 385
 砂嘴 324, 325, 327~34, 336, 337, 343,
 348, 357
 誘い歌(求婚歌)
 196, 197, 200, 202, 205, 207, 247, 258, 422
 察拳 42, 46, 60
 サト(里・郷・五十戸) 86, 126, 228,
 229, 239, 242, 244, 291, 292, 413~6
 佐比 367, 376~81, 388~90
 (播磨国) 佐比岡 377~81, 385, 388, 389
 (山城国) 佐比河原 380
 (山城国) 佐比寺 380

大津皇子の乱 151
 (岡山県)大飛鳥・小飛鳥 329～32
 (摂津国)大輪田泊 322, 323, 349, 350, 359, 360
 (筑前国)岡の水門 336
 息長命 367, 375
 沖ノ島 336
 オケ・ヲケの皇子 177, 178, 183, 193
 (兵庫県)男明神・女明神 379, 381, 385, 387, 388
 弟日姫子(佐用姫) 176
 (出雲国)邑美の冷水 189, 237
 オホヤケ 6, 19, 20, 230

 か
 註誤 131, 151
 皆婚(Universal Marriage) 203, 223, 276
 皆婚規範 207, 262, 422
 外婚制 239
 賈誼 74, 76, 77
 科挙(制) 42, 44
 白禰原童女 177, 179, 201
 (常陸国)香島大神(鹿島神宮) 242～6, 334
 苛政 97, 152, 411, 412
 縵兒 209, 214
 (下総国)香取神 246
 家父長制 6, 9, 175, 260
 神戦さ 289, 370, 424
 神今食 296
 (播磨国)神尾山 366, 367, 377～9, 385, 389, 390
 神がかり 296, 298, 305, 419
 神語り 247
 上道臣息長借鎌 375
 鴨部首福主 49, 98
 からかい(歌) 254, 258, 422
 軽嬢子・軽皇子 196, 197
 (大和国)軽市 196, 239
 川枯首吉守 49, 101
 (出雲国)川辺の出湯 187, 189, 237
 (摂津国)神前審神浜 322, 340, 341
 (摂津国)神前松原 323, 332, 341
 感性的身分標識 79, 400

官途(出身) 53, 60, 72, 83, 84, 99, 135, 404
 勸農 41, 42, 68, 71, 72, 74, 158, 234, 259,
 280, 293, 299, 419, 420
 神戸(神部) 243～6, 351, 416
 官吏(官人)登用 47, 48, 60

 き
 記紀神話(宮廷神話) 283, 288, 354
 飢饉 101, 211, 252, 417
 (肥前国)杵島山 187, 189, 238
 疑似民族集団 18
 擬制的な集団帰属意識 148, 158
 畿内(制) 7, 91, 92, 104, 135, 145, 289,
 307～9, 357, 358, 360, 364, 366, 368, 373,
 401, 406, 412
 畿内官田(制) 97, 145, 146, 157
 紀朝臣広純 149, 150
 厳しい生存条件 190, 263
 九品中正 42
 饗宴(饗給) 18, 154, 155, 353, 356
 境界祭祀 377, 381, 388～90
 郷官 63, 72, 73
 行基 91～7, 103, 104, 117, 137, 159, 260,
 261, 406, 407, 412, 425
 郷挙里選 42, 46, 54, 61, 72
 教訓歌 250, 257, 421
 共食者 353～5
 共同飲食(共食) 187, 190, 234, 236, 242,
 247, 301, 306, 353～8, 360, 420, 421
 共同体機能 5, 6, 19～22, 230, 234, 264, 280～2

 く
 傀儡 81
 (河内国)日下 177, 180
 苦使 129, 141
 (丹後国)久志浜 327
 国占め(神話) 194, 282, 284～300, 302
 ～7, 309, 312, 370, 371, 419, 425
 国作り(神話) 283, 287
 国主 296, 297, 307
 国引き(神話) 283, 284, 290, 292, 305
 国見 190, 194, 292, 293

事項索引

あ

明石浦	322, 342
明石海峡	340~2
赤石櫛淵	358, 359
足柄岳	239
葦原志挙(許)乎命	
285, 286, 288, 289, 293, 295, 298, 307, 370	
按察使	135~8, 150, 155, 158
アヂスキタカヒコネ	193
阿曇連百足	192
阿比泥の浜	197
吾瓮の海人	339
阿倍引田臣比羅夫	181
海人(海部)	
246, 325, 328, 329, 331, 333, 338~43, 388	
アマガサキ(尼崎・海人崎・海崎・海士崎)	
340, 341	
海直溝長	341
天橋立(天椅立)	325, 327~9, 331, 333, 337
天日杵(槍)命	
193, 286, 289, 290, 307, 366, 370, 371	
漢人	367, 377, 378, 388~90
荒ぶる神	193, 372, 376, 378, 388~92, 403

い

(播磨国)粒丘	293, 298, 302
(兵庫県)飯盛山	297
(播磨国)鵜荘	381, 383~5, 391
イザナギノミコト	327, 329
イザナミノミコト	354
石作	308
出雲往来(雲州街道)	307, 368, 369, 385
出雲大神	366, 367, 374, 376, 377, 389, 392
出雲国造	290, 367, 374, 376, 391
出雲阿菩大神	366, 372, 392
出雲臣比須良比売	367, 374~6
伊勢都比古・伊勢都比売	192

夷狄	144, 148, 152, 153, 409, 410
(摂津国)猪名浦(泊)	322, 323, 332, 342
因幡往来	307, 368, 369, 385
印南別嬪	176, 367, 375, 376
伊福部五百足	49, 59, 98
異類意識	143
異類婚	175, 181
伊和(大神)	
192, 285~90, 293, 299, 308, 309, 367, 370	
磐座	240, 332, 381, 385, 388
(常陸国)石門	188, 238
伊和君	287, 308

う

歌垣(嬬歌)	186~91, 194~202, 204~
10, 212~4, 235~42, 244, 246~59, 262~	
4, 421~3	
(摂津国)歌垣山	189
海上安是嬢子	187, 188, 237
(常陸国)童子女松原	187, 188, 237
采女	178, 181, 204, 217, 421
優婆夷・優婆塞	91, 140, 141
占部(卜部)	187, 188, 190, 237, 242~6

え

疫病	101, 102, 211, 252, 254, 390, 403,
417, 418, 425	
エミシ(蝦夷)	143, 144, 147~59, 181,
409~13, 424, 425	

お

奥羽(地域)	130, 131, 152~7, 411
王臣・王民	118, 148, 157, 410
オウナ(嬬)・オキナ(翁)	253
(常陸国)大井	188, 239
(出雲国)大井社	238
大江匡房	81
大河内直	354, 355

◎著者紹介◎

坂江 渉 (さかえ わたる)

1959年 大阪府生まれ、滋賀県育ち
1978年 滋賀県立膳所高等学校卒業
1982年 滋賀大学経済学部経営学科卒業
1984年 神戸大学文学部史学科卒業
1986年 神戸大学大学院文学研究科(修士課程)修了
1992年 神戸大学大学院文化学研究科(博士課程)単位取得満期退学
2013年 神戸大学より博士(文学)取得
職歴 神戸大学助手・講師・特命准教授、大阪外国語大学・神戸女学院大学などの非常勤講師を経て、現在、兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室・研究コーディネーター

〔主要業績〕

「大宝田令荒廃条の特質と墾田法の変遷」(『日本史研究』313号、1988年)
坂江渉編『風土記からみる古代の播磨』(神戸新聞総合出版センター、2007年)
坂江渉編『神戸・阪神間の古代史』(神戸新聞総合出版センター、2011年)
「播磨国風土記の民間神話からみた地域祭祀の諸相」(武田佐知子編『交錯する知——衣装・信仰・女性——』思文閣出版、2014年)
「風土記の「荒ぶる神」の鎮祭伝承——王権と広域権力による地域編成の一断面——」(『出雲古代史研究』25号、2015年)

にほんこだいこっか のうみんきはん ちいきしのかい
日本古代国家の農民規範と地域社会

2016(平成28)年1月25日発行

定価：本体9,000円(税別)

著者 坂江 渉

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷
製本 亜細亜印刷株式会社

©W. Sakae

ISBN978-4-7842-1787-8 C3021